

画期的な「寮内留学プログラム」スタート



国際交流会館で 留学生と共同生活

グローバル人材育成 交流事業充実

留学生との共同生活を通じて異文化理解や国際コミュニケーション力を養う寮内留学プログラムが9月にスタートした。このプログラムは、専修大学生14人が国際交流会館でレジデント・パートナー(RP)として約半年間、国際交流協定校などからの「日本理解(BCU)プログラム」及び「日本語・日本事情プログラム」の短期留学生や特別聴講生と共同生活を送ることによってグローバル人材の育成を図る。入寮学生たちに聞いた。

▲ 左からガーさん、菊池さん、島田さん、J・マケンさん＝国際交流会館

「現地を旅するよりも価値がある」 「文化・習慣の触れ合いを楽しむ」

10月のある昼下がり、国際交流会館2階のダイニングには、開講中のBCUプログラム(12月13日まで)の午前の授業を終え、昼食を取る短期留学生や、RPの学生たちが集まっていた。

RPの菊池涼さん(経営3)は、昨年来国オレゴン大学に6カ月間、中期留学した。「アメリカでも寮生活でした。明るくてプラス思考のアメリカ人との生活が性に合っていた」と振り返る。帰国後、生田キャンパスで寮内留学プログラム募集ポスターを見て「これだ」と直感。「留学のときのような異文化体験ができる良いチャンス」と応募した。

ルームメイトは、BCU受講生のジョセフ・マケンさん。米国ネブラスカ大学リンカーン校で、日本語とビジネスを学んでいる。

「日本語の勉強は大変だが、漢字は800字ほど分かるようになった。リョウ(菊池さん)は宿題をチェックしてくれた。日本語の会話の相手をしてくれる。生活面も安心」と話す。

二人の会話は「はじめるのは日本語。話しているうちに英語になる。お互いに勉強に励んでいる。お互い」

「寮内留学のおかげで人とコミュニケーションがとれるようになった。日本にいて海外の人とルームシェアできる機会はなかなかない」と話す。

同室の留学生は、ドイツのイ・ガーさん。ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学の特別聴講生で、専攻は日本語。本学では人間科学部社会学科で学んでいる。

ガーさんは「日本語を練習するチャンスが増え、部屋でつるぐ、平井さん(右)とルームメイトのS・イムリーさん」

「寮内留学のおかげで人とコミュニケーションがとれるようになった。日本にいて海外の人とルームシェアできる機会はなかなかない」と話す。

同室の留学生は、ドイツのイ・ガーさん。ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学の特別聴講生で、専攻は日本語。本学では人間科学部社会学科で学んでいる。

ガーさんは「日本語を練習するチャンスが増え、部屋でつるぐ、平井さん(右)とルームメイトのS・イムリーさん」

「寮内留学のおかげで人とコミュニケーションがとれるようになった。日本にいて海外の人とルームシェアできる機会はなかなかない」と話す。

同室の留学生は、ドイツのイ・ガーさん。ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学の特別聴講生で、専攻は日本語。本学では人間科学部社会学科で学んでいる。

ガーさんは「日本語を練習するチャンスが増え、部屋でつるぐ、平井さん(右)とルームメイトのS・イムリーさん」



「寮内留学のおかげで人とコミュニケーションがとれるようになった。日本にいて海外の人とルームシェアできる機会はなかなかない」と話す。

同室の留学生は、ドイツのイ・ガーさん。ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学の特別聴講生で、専攻は日本語。本学では人間科学部社会学科で学んでいる。

ガーさんは「日本語を練習するチャンスが増え、部屋でつるぐ、平井さん(右)とルームメイトのS・イムリーさん」

「寮内留学のおかげで人とコミュニケーションがとれるようになった。日本にいて海外の人とルームシェアできる機会はなかなかない」と話す。

同室の留学生は、ドイツのイ・ガーさん。ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学の特別聴講生で、専攻は日本語。本学では人間科学部社会学科で学んでいる。

ガーさんは「日本語を練習するチャンスが増え、部屋でつるぐ、平井さん(右)とルームメイトのS・イムリーさん」

「寮内留学のおかげで人とコミュニケーションがとれるようになった。日本にいて海外の人とルームシェアできる機会はなかなかない」と話す。

同室の留学生は、ドイツのイ・ガーさん。ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学の特別聴講生で、専攻は日本語。本学では人間科学部社会学科で学んでいる。

ガーさんは「日本語を練習するチャンスが増え、部屋でつるぐ、平井さん(右)とルームメイトのS・イムリーさん」

「寮内留学のおかげで人とコミュニケーションがとれるようになった。日本にいて海外の人とルームシェアできる機会はなかなかない」と話す。

同室の留学生は、ドイツのイ・ガーさん。ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学の特別聴講生で、専攻は日本語。本学では人間科学部社会学科で学んでいる。

ガーさんは「日本語を練習するチャンスが増え、部屋でつるぐ、平井さん(右)とルームメイトのS・イムリーさん」

「寮内留学のおかげで人とコミュニケーションがとれるようになった。日本にいて海外の人とルームシェアできる機会はなかなかない」と話す。

同室の留学生は、ドイツのイ・ガーさん。ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学の特別聴講生で、専攻は日本語。本学では人間科学部社会学科で学んでいる。

ガーさんは「日本語を練習するチャンスが増え、部屋でつるぐ、平井さん(右)とルームメイトのS・イムリーさん」

ニユーズ専修

毎月1回15日発行 (定価一部90円) 発行所 専修大学広報課
〒101-8425 東京都千代田区神田3-8-8
03-3265-5819(直)

http://www.senshu-u.ac.jp/

主なニュース

上原敏夫後70年記念展でご子息が講演／大好評「歴史を紐とく」……2
商学部創立50周年・商学教育110年特集……3
就職活動を振り返って・村松秀規さん(文4)／皆既月食観測会……4
今村法律研究室フォーラム／
コロナピア大学に相馬永胤の英文日記を寄贈……5
石巻専修大学 創立135周年鳳祭／神田鳳祭2014……6
石巻専修大学 石巻祭／人間学部が研究発表会を開催……9

学校をつくらう

創立者4人の青春物語
DVD絶賛販売中(購買会他)

社会知性開発センター主催シンポジウム

古代東ユーラシア研究センターシンポジウム
「古代東ユーラシア地域と朝鮮・日本」
【日時】11月29日(土) 13時～17時 【場所】神田キャンパス3301教室
ソーシャル・ウェルビーイング研究センター国際シンポジウム
「ソーシャル・ウェルビーイングと経済発展」
【日時】12月6日(土) 14時～17時30分 【場所】神田キャンパス731教室

温かな人間関係を

大林守国際交流センタ―長は「寮内留学は人間関係を作る努力と工夫が大切。生活の中で国際交流という貴重な体験を積み、成長している」と話している。

17カ国・地域の21大学と国際交流協定を結ぶ本学の留学プログラムは、長期・セメスター交換留学、中期・短期留学プログラムがある。寮内留学プログラムは、誕生で自分磨きの場が多彩になった。

寮内留学開講式であいさつする大林センタ―長

大学のサム・イムリーさんと同室。イムリーさんは小学生時代、日本で過ごしたこともあり、二人の会話は日本語。

「6カ月間いろいろな国の人と知り合えるし、さまざまな価値観に触れる。現地に旅行するより価値があるのでは」と話している。

吉田由花さん(経営2)は中国・上海大学からの留学生、邱語文さん(特別聴講生)と同室。一緒に夕食を作ったことを思い出す。

後期のRPは事前に、語学研修や異文化間コミュニケーションを積むが、最も大切な適性は、留学生をサポートする積極性やボランティア精神だ。

2人1部屋 42人が入寮
国際交流会館には、留学生が23人、ドミトリ・フランス、アメリカ、ベトナム、カンボジア、アラブ、モンゴル、中国、台湾、韓国、10カ国・地域。日本人学生であるRPとRAレジデント・アシスタントが19人。合計42人の学生が入寮している(11月10日現在)。ほとんどが外国人との2人1部屋で暮らす。同会館には居間、国際交流事務課スタッフが常駐。寮生活をきめ細かくサポートしている。

2015年度の前期(4月25日～8月10日)「寮内留学プログラム」生を募集。申し込み締め切りは15年1月9日。詳しくは国際交流事務課へ。